

研究協力のお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

ERCP を主とした透視下内視鏡検査および内視鏡検査における、内視鏡施行医の負担軽減

1. 研究の対象および研究対象期間

2025年4月から2028年3月で、ERCP を主とした透視下内視鏡検査および内視鏡検査を施行し、ERCP 手術における作業負担を調査する目的で行った「ERCP の作業負担アンケート」に回答をした施行医

2. 研究目的・方法

近年、内視鏡施行医の負担が指摘されています。Musculoskeletal Disorders (MSDs：筋骨格系疾患) として、内視鏡に関わる医療従事者が職業性 MSDs を高率に発症することが多くの研究で示されています。

内視鏡施行医の身体的負担、特に放射線防護衣を着用して行う胆膵内視鏡領域における筋骨格系疾患 (MSDs) の発症は、かねてより指摘されている課題です。従来、これらの手技は立位で行われるのが一般的でした。

近年、一部の施設や医師により、その身体的負担を軽減する試みとして座位での内視鏡施行が導入されつつあります。しかし、座位での施行が実際に術者の負担軽減や検査効率にどう影響するかについての客観的数据はまだ十分ではありません。

そこで本研究では、過去に施行された、業務改善で作業負担を調査するアンケートのデータを後ろ向きに解析します。立位および座位で施行された症例群を比較し、術者の疲労度、身体的苦痛、検査時間、放射線被ばく量といった指標に有意な差が存在するかを明らかにすることを目的とします。

本研究から得られる知見は、高齢化が進む内視鏡施行医の労働環境改善や就労可能年数の延伸に繋がり、ひいては持続可能な医療提供体制の維持という社会的貢献に繋がるエビデンスとなることが期待されます。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2028年3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

検査施行医のアンケート調査による検査の苦痛度・疲労度・検査満足度、

身長・体重・BMI、検査時間・放射線被ばく量

5. 外部への試料・情報の提供

該当しません

6. 研究組織

研究責任者 昭和医科大学江東豊洲病院消化器センター 角 一弥

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院消化器センター 氏名：角 一弥

住所：東京都江東区豊洲 5-1-38 電話番号：03-6204-6879